レッスン：34“Ｍ”

テーマ：創造界のセル/三角形

MAC34.EN/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

以前のレッスンで生命の木について話し、同一の大きな三角形が三つある、と述べました。一番上にある三角形はそれ自身のアウタルキー、それ自身の多様性にある絶対存在を示しています。

もう一つの三角形は一番上の三角形と底辺を共有している下向きの三角形で、それは汎宇宙的ロゴス、キリストロゴスを示す三角形です。三つ目の三角形は生命の木の一番下にあり、下向きで、生命の現象および現在のパーソナリティーとしての人間を示しています。三つの同じ三角形は創造界のセル（＊全体のなかの区切られた部分））として非常に重要です。

現在のパーソナリティーの三角形は他の二つの三角形と同一であるべきなのですが、実際には同一ではありません。なぜなら、それは人間が表現する無知のレベルによって影響され、変えられているからです。人間は他の二つの三角形と「同一のステータス」を再確立するために、現在のパーソナリティーについてのワークをする必要があります。現在のパーソナリティーとしての人間はその三角形を他の二つと同一にするために、思考・行動の仕方としての自分の気づきのレベルについてワークをする必要があります。それが完了したとき、現在のパーソナリティーは自己実現のレベル、つまり最初の磔に到達した、と言うことができます。

絶対存在を示している一番上の三角形は四つの小さな三角形に分けられ、それらの三つは上向きで、四番目の三角形は下向きになっています。四番目は真ん中にあります。一番上にある小さな三角形は絶対的に「父」（Father）に属し、絶対英知・絶対パワー・絶対善という特質があります。右側の上向きの小さな三角形は絶対善としての絶対存在の本質に属します。左側の上向きの小さな三角形は絶対パワーとしての絶対存在の本質に属します。絶対英知、絶対善、絶対パワーとしての上向きの三つの同一の三角形です。これら小さな三角形はどれも大きな三角形の特質を完全に有しています。一番上の小さな三角形は優先順位的に絶対英知、絶対善、および絶対パワーを有しています。右の小さな三角形は優先順位的に絶対善、絶対英知、絶対パワーを有しており、一方、左の三番目の小さな三角形は優先順位的に言うと絶対パワー、絶対英知、絶対善の順になります。

四番目の下向きの小さな三角形はアウタルキーにおける絶対存在の多様性を示しており、創造と表現のための神の黙想の動きはこのポイントから始まります。この小さな三角形は縦に二つに分けられます。この垂直の線は、キリストロゴス絶対存在が神の黙想の結果として現れるために、創造の諸世界に下降するための道です。

Page2

生命の木の右半分は全て、ロゴス的表現、人間のイデアを通じて創造界にそれ自身の微細な部分を表現する聖なるモナドであり、このＢ２のポイントから下降します。左半分は全て、聖霊的現れを通じて創造界に微細な部分を表現する聖なるモナドであり、下降してＣ３の左の道に入ります。

四番目の三角形は中央の道によって分割されているにもかかわらず、半分になった両方には、現れに向かうロゴスおよび聖霊の水平の道への共通の入口があります。この道は大きな三角形…つまり「父」の三角形および汎宇宙的キリストロゴスとしてのキリストロゴスの三角形…の底辺です。既に述べたように、全ての聖なるモナドはこのポジションにおいては、現れへの神のブレーシス（＊神の意思）あるいは意思以外にはその本質において全く同じであり、違いはありません。聖なるモナドのなかには、人間のイデアを通じて現れるブレーシスを有しているもの、および様々なアークエンジェルのオーダーを通じて聖霊として現れるブレーシスを有しているものがあります。

ですから、「父」なる大きな三角形のなかには四つの同一の小さな三角形があります。

人間のイデアを通じて現れる聖なるモナドは生命の木の右側に集まり、創造界へのロゴスの下降をします。聖霊的下降を通じて現れる聖なるモナドは生命の木の左側に集まり、様々なアークエンジェルのオーダーを通じて現れます。「父」および汎宇宙的キリストロゴスに属する三角形の底辺から下へと長方形が伸びており、その長方形は中央の道によって二つの等しい四角形に分割されます。この長方形のステート（＊段階、状態）について述べるのは不可能です。言えることは唯一つ、それは聖なるモナドの聖なる意思が創造界および現れへと入る「用意ができている」ステート、であるということです。

今述べた下に伸びている長方形の底辺から、二つの四角形に分割されるもう一つの長方形ができています。そして、この長方形の中には存在の諸世界内の創造界・Lifeの現れ（Expression of Life)があります(＊四つのヘブンのこと)。

この長方形の中央には、非常に重要なことですが、汎宇宙的キリストロゴスを示す三角形のポイントがあります。

四つのヘブンであるこれらの諸世界、それらは元型、イデア、法則、原因の諸世界です。天人を意味するイエス・キリストロゴスとしての汎宇宙的キリスト・ロゴスはこれらの世界にいます。

ロゴス的下降を通じて、魂のセルフ・エピグノシスの現れがあり、また聖霊的下降を通じて様々なアークエンジェルのオーダーの現れがあります。

この長方形の底辺から下へと、絶対存在の三角形および汎宇宙的キリストロゴスの三角形と同一の三つ目の大きな三角形ができています。

初めに述べたように、現在のパーソナリティーのこの三角形は他の二つの三角形と同一であるべきなのですが、実際には同一ではありません。現在のパーソナリティーが自己実現に到達したときにのみ、それは同一の三角形となります。人間が無知のなかにある間はこの三角形は他の二つと同一ではありません。現在のパーソナリティーのワークは、この三角形を元の形へと再形成することです。そのワークとは気づきの上昇に向けたワークに他なりません。

Lifeの現象としての人間にとって、例え自己実現に達していてもLifeそれ自体の諸世界で自らを表現することは不可能です。人間はスーパーサブスタンスの諸世界で自分自身を表現することは可能ですが、それは実存の諸世界の中のスーパーサブスタンスです。そのスーパーサブスタンスは実存の諸世界の中におけるステート（段階、状態）ですが、しかしそれでも形の境界のない世界です。それらは不定形の世界であり、形に関して境界のない存在の諸世界と非常に似ています。しかし、ここで“しかし”と強調しますが、大きな違いがあります。なぜなら、それらの世界はまだ同調の諸世界に留まっており、同化の世界ではありません。存在、Lifeそれ自体の世界では、全ては全ての中にあります。それゆえ、私たちはまだこの時点では、Lifeの現象の世界とLifeそれ自体の世界を区別します。

Page3

また私たちは次のように話しました。実存の諸世界には人間が超感覚を表現し始めるポジションがあり、それが超意識的意識のセルフ・エピグノシスの始まりであり、またインナーセルフの多くの特質を表現し始めるポイントであると。

Lifeの現象の現れはフィルターを通していますが、Lifeそれ自体の現れは完全です；LifeはLifeそれ自体の特質を完全に現しています。確かにこれを理解するのは困難ですが、しかし全体としての目的は、私たちが内側の特質として有しているものを表現することです。

一番上の三角形と下の三角形の間では時間の意味は存在しません。しかし、私たちはこのことを認識することはできません。なぜなら、

意識のセルフ・エピグノシスとして私たちはあまりにも遅く動くからです。あなたが超意識のセルフ・エピグノシスを表現するレベルに到達すると、あなたは遥かに速いスピードで移動できるようになります。多くの出来事を一瞬のうちに見ることができ、過去生の多くの出来事さえも一瞬で見ることができます。自己実現したパーソナリティーとしてLifeの現象の中にある時でさえ、思考の速度で移動することができます。

前に述べたように、「火」における洗礼は、現在のパーソナリティーが超意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現し始める瞬間から、現在のパーソナリティーの大きな三角形の中の五芒星のポイントからスタートします；理論的には「火」の洗礼は、最初の磔のポジションで現在のパーソナリティーが自己実現に到達する時に現在のパーソナリティーによって完了すべきなのですが、実際には現在のパーソナリティーが転生のサイクルに留まるので、それは起こりません。その完了は、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスによって、二番目の磔において起こるでしょう。ここで私たちが最初の磔と二番目の磔の間と言うとき、実際にはそこには距離がないことに注意してください。というのも、Lifeそれ自体の世界には境界も限界もないからです。二番目の磔から、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスはスピリットにおける洗礼の動きへと入ります。スピリットにおける洗礼は三番目の磔で完了し、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスは「父」である神のもとへ戻るのです。

**質問**：現在のパーソナリティーは最初の磔、自己実現に到達するために下の三角形で努力しています。それでは、既にそのポジションに到達したパーソナリティーたちはこの地球上の全ての人々も同じように到達できるよう助けるために絶えず戻ってくるわけですが、その結果、この地球の居住者である私たち全員が存在の諸世界に入ることになるのでしょうか？

**Ｋ**：そうです、惑星として。そのとおりです。

**質問**：それでは、私たちはこの世界に一緒に入り、次に一緒に二番目の磔に入る、と理解してよろしいのでしょうか？

**Ｋ**：そうです。しかし前に述べたように、私たちはこのポジション（B7-C8）より上および存在の諸世界で何が起こるかわからないのです。なぜなら、自由な動きがあり、制約がないからです。私たちはそれらの諸世界、存在の世界については多くを知りません。というのも、それは経験に基づいた知識ではないからです。確かに、多くの神秘家たちは自分が提供する知識は全て、自分の経験によって得た知識だと主張しています。残念ですが、彼らが経験したことは全て実存の諸世界、高次ノエティカルの段階におけるものだと言わざるをえません。さらに、彼らの大部分は多くのイリュージョンの下にいます。というのも、彼らがある表現レベル、パワーと能力を表現するレベル、に到達したのは気づきの上昇によるものではなくて、生命の木の逆さまの反映をワークした結果だからです。それは地面のなかにあるものです。その結果、彼らは自分たちのイリュージョンにフォーカスし続けることになったのです。

真理の探求者は、自分自身のために、上に述べたこのポイントを真に理解する必要があります。誰でも転生のサイクルにある間は、「Lifeそれ自体の世界」の知識を経験によって得た、と主張することはできないのです。

**質問**：初めて下降するとき、初めての現在のパーソナリティーを創造するために、魂のセルフ・エピグノシスが永遠のアトムのイデアを通じてスパークを送ります。微細なスパークだけが無知のなかに取り込まれ、残りは存在の諸世界に留まっています。「色を帯びた」現在のパーソナリティーは最終的には魂のセルフ・エピグノシスへと帰還し、その魂は自己実現した魂となります。それは、全ては全てのなかにあるスーパーサブスタンスの諸世界において起こります。さて、もし全てが全てのなかにあるのなら、それは絶対存在のアウタルキーの中であり、それゆえ、そのポイントより先は存在しないはずです。それなのに、どのようにして洗礼の続きが起こりえるのでしょうか？

**K**:しかし、現在でも私たちは全てが全てのなかにあるアウタルキーの中にあるのですが、私たちはそれを認識していないのです。私たちがこのリアリティーを認識していないのです。というのも、私たちは現れとして無知のなかに入り、制限、限界のなかにあるからです。

**質問**：はい、でも魂のセルフ・エピグノシスの自己実現、および全てが全てのなかにある世界におけるスピリットの洗礼をどのようにして区別するのか、という疑問があります。

**K**：火における洗礼の完了は創造の諸世界の中でのことです。そこでは全てはマインドの様々な異なった波動によって築かれており、Lifeの現れも異なった様々な波動のマインドを通じて存在しています。しかし、スピリットにおける洗礼の始まりは、創造の諸世界より上でのプロセスです；それは自己実現した魂のセルフ・エピグノシスがスピリット・モナド・セルフに帰還するための絶対黙想のなかでのことであり、この帰還によってスピリット・モナド・セルフに自己実現が与えられるのです。

私たちはいつも主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/EREVNA/MAC34/SEN/KE410.